

# 岩手県

## 街道 1

浪打峠の切通し（一戸町、江戸期、国天然）**A**は奥州街道の峠部分にある岩を開削した切通しであるが、その魅力は付加価値の方にある。この切通しが国の天然記念物に指定されているのは、1500 万年前に堆積した火山岩粒や砂・軽石が堆積したクロスラミナ（斜めに交叉する小規模な地層）の美しい縞模様が見られるからで、峠道は地質観察に最適の散策道になっている。



提供：一戸町教育委員会

## 街道 2

盛岡藩は、安永 9（1779）、街道並木に松か柳を植えるよう指示しているが、鹿角街道のマダ並木（八幡平市、安永 9 以降）**B**では自生木をそのまま用いている。それは、七時雨山の過酷な環境では松や柳を植えても生育が難しいので、シナ科のマダを並木として利用したからで、全国的にも例のない並木となった。下の写真で、左端にあるのが街道、中央の枝の張った木がマダである。



提供：八幡平市教育委員会

## 街道 3

岩手県は、東北 6 県の中でも一里塚の数が 87 基と群を抜いて多い所で（東北の 48%、全国の 21%）、多様な姿を楽しむことができる。奥州街道の成田一里塚（北上市、慶長 9（1604）以降、県史跡）**A**は、西塚にオリジナルの塚木（櫟）が残るだけでなく、現役の道路の両側に 2 基の大きな塚がそのまま残り、良好な歴史的空間を形成している。



撮影：馬場俊介（2010.6.15）

一方では、小本街道の塚の沢一里塚（盛岡市、江戸初期、県史跡）**B**のように、塚木を失った 2 基の一里塚が山中に当時のまま残っているケースも多い。因みに、小本街道は海産物を盛岡に運ぶ重要な輸送路であったが、道が険しいため牛の背に積んで運んだと言われている。



撮影：馬場俊介（2013.3.20）

## 街道 4

絵入り道標は、岩手と大阪でしか見つかっていないが、宮古の絵入り道標（宮古市、安政 2（1855）、市史跡）**B**は、頂部に刀と鎌の絵が彫られている。刀は護身用の道中差しで、旅人や公用人が通る道を、鎌は草刈用で、村人が通る山道だということを示している。大阪府の道標で、地名の漢字を絵で代用し



撮影：馬場俊介 (2010.6.15)

ているのと比べると、「判じ物」のような感じがしないでもない。刀の絵の下には、「右ハ い王いつミ」 (=岩泉)、鎌の絵の下には、「左ハ やまミち」と平易な文字で書かれているので、なぜ紛らわしい絵

が必要だったのかは不明である。県下には他に2基が見つまっている。

## 街道5

近世盛岡藩10万石の城主大名となった南部氏は、中世以来の豪族で、北を津軽藩4万7000石、西を秋田藩20万石、南を仙台藩60万石に囲まれ、何れの藩とも領地紛争を起し幕府か仲介に入っている。表面的な理由は、木材資源や鉱物資源の争奪だが、背景には藩境界が山地で不明瞭だったことや、南部氏にとって格下・格上となる隣国との間に感情的なわだかまりがあったともされるが、こうした事態が異例であったことに変わりはない。3ヶ国の中で最大の領土紛争の場が南部領と伊達領の接点で、幕府の仲裁で寛永18(1641)に絵図上に点で境界を明示した覚書を交換、翌19年に150キロの間に460基の藩境塚を築き、誓約文を取り交わして藩境が確定



撮影：馬場俊介 (2008.10.20)

した。特に紛糾した地域では塚の設置間隔が狭く、南部領伊達領境塚(北上市・金ヶ崎町) **A** として国の史跡に指定された範囲の11キロには、挟塚2基、大塚17基、小塚198基が現存している(写真は大塚の一つ)。

## 農業1

岩手を代表する農業遺産は、建設年代が承久3(1221)から明応年間(1492-1501)まで諸説があるものの、中世起源の穴堰(水路隧道)をもつ穴山堰(奥州市) **A** である。農業の水路トンネルとしては、わが国でも最古級である。穴堰は総延長2759m(昭和期の延長部分を含む)で、壁面には、たがねの痕跡や、明りを取るために菜種油を灯した半皿状の窪みが残っている。



提供：旭沢平野土地改良区

## 鉱業1

東北地方有数の金山と言われるのが平糠金山(一戸町、中世末期～江戸期) **A** である。文献的な裏付けはないが、南部藩が関係した可能性が指摘されている。江戸期の金採取の3方法(川金、芝金、山金)のすべてが見られるが、特に、中腹の掘込み跡は芝



提供：御所野縄文博物館

金、穴子観音堂のある金山は山金である、穴子観音堂の坑道は狸掘りに近い。

## 産業 1



水戸藩的那珂湊反射炉（1855）の築造に関わった盛岡藩士・大島惣左衛門（後の高任）が、大砲製造に砂鉄を原料とすることの不適切さを悟り、翌年（1857）、洋式高炉（大橋高炉）を築造し、鉄鉱石から銑鉄への連続出銑に日本で初めて成功する。大島が2つ目に築造し、かつ、現存しているのが橋野高炉（釜石市、万延元（1860）、国史跡）**A**である。大橋山一帯で採れる磁鉄鉱に着目して高炉を建設したことが、鉄の町・釜石の成立につながったことを考えると、橋野高炉は釜石のシンボリック存在として、産業史上の価値を超えた位置付けにある。

## 防災 1

「都道府県ごとの特徴の分析」では、滅失した遺産については触れないのが原則であるが、東日本大震災による津波で海岸線が陥没し、砂防林が流失した高田松原（陸前高田市、寛文7（1667））**A**では、江戸末期に補植されたと思われる「奇跡の一本松」

がシンボルとして永久保存されていることから、例外的に取り上げることにする。

かつての高田松原は、国内で最も保存状態の良い江戸期の海岸砂防林として国の名勝にも指定されていた。樹齢 300 年を超えるクロマツ・アカマツからなる松林で、3代に渡り手入れや補植が続けられてきた。2011.3.11 の地震で一瞬にして松原は消失、「奇跡の一本松」と呼ばれた1本だけが残ったが枯れ死し、2012.9 に伐採された。しかし、震災と復興のシンボルとして 2013.6 に精巧なイミテーションの松が完成した。今後の課題は、後継樹の育成と松原の再生であろう。

## 衛生 1

大慈清水と青龍水（盛岡市、江戸期）**A** は、盛岡を代表する湧水である。湧水から雛壇形式の水枠に水が順に流れ、一番井戸が飲料水、二番井戸が米とぎ場、三番井戸が野菜・食器洗い場、四番井戸が洗濯物すすぎ場として使われている。木造屋根付きの構造で、現役で使われているのは全国的に見てもほとんど例がなく、民俗学的にも貴重である。

